

常磐高等学校 令和8年度 学校重点目標並びに学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画				総合評価(3月)		
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。					
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
「授業が全ての教育活動の根幹」を合言葉に、創意工夫の授業と授業評価アンケートを活用した授業改善により、わかる授業と学習意欲の向上を図った。またシラバスの活用により、学習の定着を行った。結果として国公立大学に15名、私立大学に71名が合格した。進路指導においては、各コース別のキャリア教育プラン活用を徹底し、進路活動の充実と、希望進路の実現を図る。生徒会や各種委員会活動が活性化し、生徒主体の学校に大きく変わってきている。今後も生徒の自治活動の更なる充実を図っていく。教職員は研修によりスキルアップを図るとともに各分掌の横断的で組織的な取り組みの強化と各部・各学年の更なる連携をはかり、生徒一人一人を大切に指導を行い転退学を防止していく。	教科指導力の向上、個に応じた分かる、進路実現に直結する授業により、基礎学力の充実を図る。	日々の授業を第一とし、基礎・基本の徹底、思考力・判断力・表現力の育成を図る。				
	基本的な生活習慣及びマナー確立し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。	豊かな人間性を培い、自己の生き方について自ら考え、自ら行動する生徒を育成する。				
	各コース別キャリア教育プランを推進し継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。	「規範意識」を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。 大学入学共通テストの変革に対応した授業改革・受験指導を徹底し、入試対応力を育成する。 多様化する進路選択に対応した指導により、希望進路(国公立大学30名以上合格)の実現に務める。				
	自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。 「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育・道徳教育を実践する。				
		具体的方策		評価(3月)		
	学習指導	教科指導力の向上	・授業規律を第一に考え、ICTやシラバスを活用し「わかる授業」「伸びる授業」のため授業改革を促進する。 ・定期的な授業評価アンケートで授業改善に努め、教員・生徒が一緒になって「授業満足度」向上を目指す。			
		学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。 ・予習・授業・復習の学習サイクルを習慣化するため、家庭学習時間を確保する手立て(宿題・小テスト等)を徹底させる。			
	生徒指導	公共心の向上	・教員が率先垂範して、挨拶、返事、礼儀作法、言葉遣いなどの基本的な生活習慣の凡事徹底を図る。 ・心の教育を行うことで、自己肯定感や他者理解、公共的な規範を向上させる。			
		生徒会活動の活性化	・生徒会を中心に生徒自らによる自治的な場ということを理解させ、自浄作用を働かせるように意識を高める。 ・生徒会や各種委員会の活動を通じ、生徒が協同して自発的な行動を行うことができるように意識を高める。			
	進路指導	進路学習の充実	・各コース、教科ごとの資格取得に向けた明確な目標を設定し、進路決定のための意識向上プログラムを構築する。 ・教育活動にICTを積極的に使用し、効率的で戦略的な指導の徹底を図る。			
希望進路の実現		・朝課外や土曜講座の精査、模擬試験分析会等を行い、キャリア教育プランを練り直すことによって進路に繋がる学力の定着と意欲の促進を目指す。 ・「総合的な探究の時間」などの精査、整備を行い、そこから培われる進路実現に向けた $+\alpha$ の力を育成する。				
その他	人権教育の充実	・人権教育特設授業や全校生徒への人権講話を通じて、生徒の人権意識と自己肯定感の向上によるいじめの未然防止に努める。 ・委員会や研修の実施頻度及び質を上げ、さらに各担任による講話が可能になるよう教職員全体の人権意識の更なる向上を目指す。				
	広報活動の充実	オープンスクール・保護者説明会への参加者増を目指すとともに、中学校との連携を強化する。 ホームページ・SNSの随時更新をおこない、生徒の活躍や部活動等の状況を広く発信する。				